

令和4年度 校長だより 第11号

1 2月になりました

「1月行く、2月逃げる、3月去る」とは実によく言い表したもので、つい先日、新年を迎えたかと思っていたら、あっという間にひと月が過ぎてしまいました。

コロナ感染症の再拡大で、時間の感覚がおかしくなってしまうようですが、確実に月日は流れています。3年生は、6日から家庭学習になり、1・2年生も、あと3週間余りで学年末試験に臨みます。15日には、皆さんの後輩である中学3年生の入学志願票受付が始まります。3年生は、本校を巣立ってそれぞれの道へ進む時が近づいてきました。好スタートで新生活を始められるよう、準備を整えていってほしいと思います。また、1・2年生にとって今は、新2・3年生ゼロ学期といえます。

『時間は有限、夢は無限』、一日一日を大切にしていきましょう。



2 自分を100度に沸騰させる「部品みがき」

最近読んだ本に書かれていた内容の一部を紹介したいと思います。

がんばって努力しているのに、なかなか成果につながらないことがあります。求めれば求めるほど、遠くなってしまう。いろいろと試行錯誤をくり返しているうちに、自分はこれでいいのか、このままでいいのか、という思いにとらわれたりするでしょう。

私も同じでした。同じどころかもっと深刻なものでした。そんな悩みに直面したときは、「今は、自分が持っているたくさんの『部品』をみがいているのだ」と考える。

実際、部品をコツコツとみがいている段階では、それはムダな作業にも思えます。

近い将来の「完成した形」が見えているのなら、その部品をみがいている意義もわかりますが、どんな形にでき上るのか皆目見当もつかず、また、その部品が仕上がりの中の部分のものなのかもわからない状態では、みがき続ける意欲も萎えてくる。しかし、そんな中でもみがき続けてきた部品たちは、バラバラだったものにもかかわらず、ある日突然一つにまとまって、素晴らしい「完成品」になるのです。

「部品みがき」とは、いうならば基礎練習。この基礎練習が基礎体力と基礎技術をつくっていく。

たとえば、何かのスポーツを始めたとき、最初は、自分に才能があるかどうかなどは考えないでしょう。ただひたすら、基礎の練習を繰り返したはずで、それがどんなにつらくとも、とりあえずは取り組んでみる。これがもし、「こんなことをやって、何の意味があるんだろう」とか、「ただ走っているだけで、試合で役に立つのだろうか」と疑ってかかったら、たちまち練習に身が入らなくなる。基礎練習が大事なことはスポーツに限らず、何の世界においても言えることだと思うのです。そうは言っても、基礎練習はつらいもの。しかし、これを続けること、つまり、「部品」をみがき続けることで、素晴らしい完成品が生まれてくるのです。

私がよくたとえて言うのですが、水は100度にならないと沸騰しません。100度になるためには、冷たい水を火にかけ、20度、50度と徐々に温めていかななくてはなりません。

「部品みがき」も同じです。いろいろな部品をみがき上げていくことで、次第次第に温度は上がっていく。そして、いよいよ90度になって、あともうひと息がんばって火を燃やせば100度になって沸騰するというとき。ここで、あと残りいくつかの部品をみがき上げる、あるいは、部品全体に最後のひとみがきをかける、それで100度になるのです。

しかし、せっかく90度まで来ているのに、そこであきらめてしまう人がなんと多いことか。

今の自分が水だとしたら何度なのか。50度なのか、90度なのか。

そんな自分の「立ち位置」を考えてみることも、部品みがきに精を出し、自分を沸騰させる秘訣でしょう。

平山郁夫著『ぶれない 骨太に、自分を耕す方法』から)